

日本酒座談会

－ 新たな日本酒ファンを増やすには －

近年国内の日本酒需要は少子高齢化の影響等もあり、減少傾向にあります。一方、2015年の日本酒の輸出金額は約140億円(対前年比121.8%)となり、6年連続で過去最高を記録しました。

このような背景の下、日本酒業界がより活性化するためのヒントを蔵元の皆様から伺います。

清酒の課税数量の推移

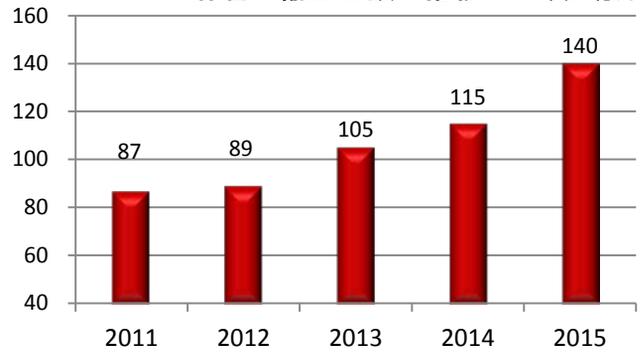
単位:千KL



出典: 国税庁統計年報書

清酒の輸出金額の推移

単位:億円



出典: 財務省貿易統計

パネリスト	プロフィール
いまだ みほ 今田 美穂 株式会社今田酒造本店 社長	明治大学法学部卒業。百貨店、能楽プロデュースの仕事などをした後、30代のはじめに家業を継ぐために帰郷。杜氏として品質重視の酒造りに切り替え、純米、純米吟醸中心の酒造りを行っている。栽培が難しく生産が途絶えていた「八反草」の復活に力を注ぐなど、こだわりを持った酒造りを行っている。
おばた るみこ 尾畑 留美子 尾畑酒造株式会社 専務取締役	慶應義塾大学卒業後、日本ヘラルド映画(当時)に入社し、その後帰郷。マスコミ・行政関係の各種審議委員等を歴任するほか、各種セミナーも多数開催。減農薬・減化学肥料で栽培し、佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」の認証を受けた酒米「越淡麗」を使用した日本酒の商品化、廃校を再生し学校蔵を作るなど、地域に根差した取組を行っている。
きのした こうたろう 木下 宏太郎 株式会社喜多屋 代表取締役	東京大学農学部卒業後、宝酒造株式会社勤務を経て喜多屋に入社。1999年に代表取締役に就任。一貫して大吟醸・純米酒等の特定名称酒を始めとする日本酒の酒質向上に力を注ぎ、海外への輸出も1996年の米国に始まり現在15カ国に至る。2013年開催のIWCで大吟醸「極醸 喜多屋」が最優秀賞(チャンピオン・サケ)を受賞。
さとう ゆうすけ 佐藤 祐輔 新政酒造株式会社 代表取締役	東京大学文学部卒業後、様々な経歴を積んで2007年に新政酒造に入社。秋田県産米、生酩づくり、自社の蔵で発見された「六号酵母」によって、他にはないユニークな商品を積極的に開発。2010年には地元若手経営者があつまり「NEXT5」を結成。技術や経営について情報交換をしながら共同で新酒の仕込みを行うなど、新たなプロジェクトに挑戦している。
はた ようじ 秦 洋二 月桂冠株式会社 常務取締役・総合研究所長	京都大学農学部卒業後、大倉酒造(現:月桂冠)株式会社入社。1989年～1991年に東京の醸造試験所へ外向。1993年農学博士(京都大学)を取得。日本酒酵母や麹菌を用いた機能性食品の研究や「糖質ゼロ」に続く新製品の開発に取り組んでいるほか、花王との共同開発で白髪染めを開発するなど、アルコール以外の製品開発にも積極的に取り組んでいる。